

経営比較分析表（令和4年度決算）

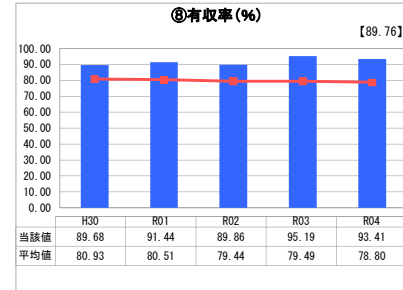
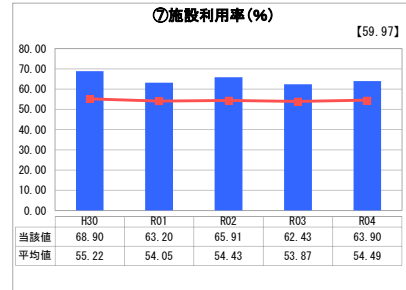
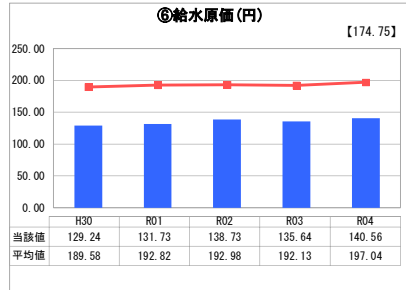
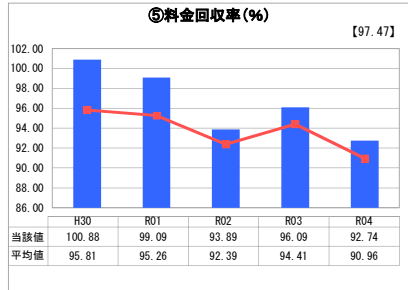
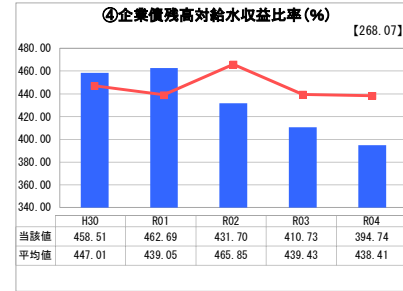
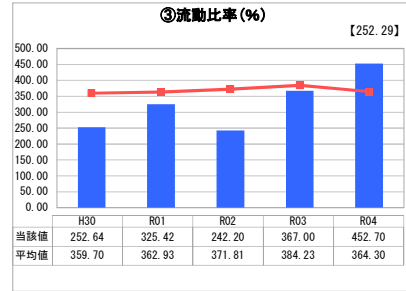
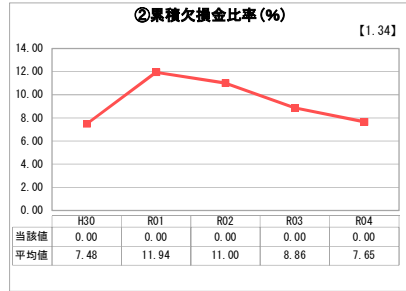
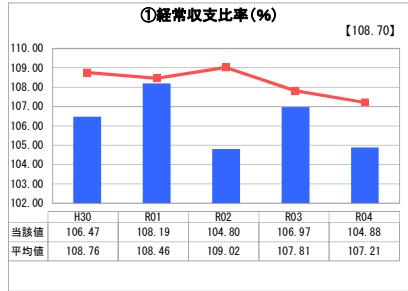
大分県 豊後高田市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	71.53	61.38	2,530	

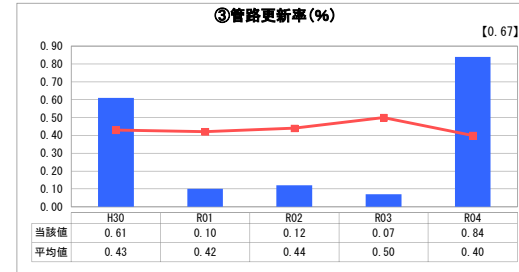
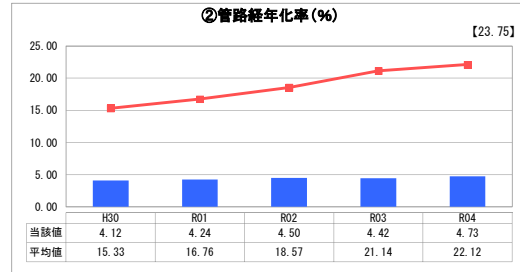
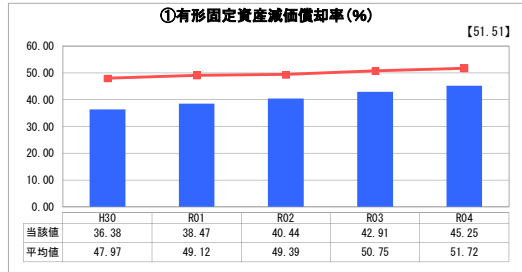
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
22,177	206.24	107.53
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
13,578	22.10	614.39

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率：
窓口業務委託による人員削減等の事務合理化を推進するなど健全な経営に努めていますが、平成30年度の事業規模の小さい簡易水道事業との統合によって、従前と比較すると比率が低下しています。

② 累積欠損比率：
累積欠損金は発生していませんが、引き続き健全な経営に努める必要があります。

③ 流動比率：
近年、類似団体を下回る比率で推移していましたが、令和4年度は比率が上昇しております。

④ 企業債残高対給水収益比率：
平成30年度から配水管布設工事や布設替工事の財源として企業債の借入を行っているものの、償還が終期となる企業債もあるため、減少傾向にあります。

⑤ 料金回収率：
① 経常収支比率と同様に、事務合理化による経常費用の削減によって回復基調にありましたが、平成30年度の簡易水道事業との統合に伴い、回収率が低下しており、今後の料金改定の検討も必要となっています。

⑥ 給水原価：
水源が地下水のため、給水処理は滅菌消毒のみで、給水費用を低く抑えることができます。

⑦ 施設利用率：
災害時の対応等一定程度の施設余力をもちつつ、類似団体よりも高い水準を維持しています。

⑧ 有収率：
類似団体を上回っていますが、90%程度で推移しており、管路の老朽化（経年管の増加）による漏水が懸念されます。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率：
計画的な施設の整備と更新によって、ほぼ一定の水準を保ってまいりましたが、給水拡張事業が集中した昭和49～51年度布設管路の更新が追いつかず、有形固定資産減価償却累計額が増加したため、微増傾向となっています。

② 管路経年化率：
計画的に管路更新を行っており、類似団体を下回って推移しています。

③ 管路更新率：
計画的に管路更新を実施するとともに、他の部署が所管する道路工事と合わせて実施しており、令和4年度は、道路工事が多かったため、更新率が高くなっています。

全体総括

現在、豊後高田市水道事業ビジョン（計画期間：令和3年度から令和12年度）及び第10次水道事業拡張計画（計画期間：平成29年度から令和12年度）に基づき、計画的な施設の整備と更新を実施し、経常費用の抑制と固定費の平準化及び大規模な施設改修事業等に備えた財源確保に努めてきました。

その成果として、類似団体よりも高い施設利用率と低いコスト構造によって健全な収益性を維持し、経営の安定を保っています。

また、公営企業である水道事業は独立採算が原則であり、今後も能率的な経営と適正な料金水準を維持することが重要です。しかしながら、人口減少に伴って料金収入についても低下することが予想され、経年施設更新費用を賄うための安定財源の確保が喫緊の課題となっています。こうした状況から、第10次水道事業拡張計画（計画期間：平成29年度から令和12年度）に基づき、給水区域内の未普及解消や給水区域隣接地への給水拡大等新たな収益増加策に取り組んでいます。